



## 「小さなことにこそ忠実になる」

～良き管理者となるために～

「小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして、小事に不忠実な人は大事にも不忠実である。」  
ルカ福音書16章10節

成功哲学者の中でも有名な、ポール・J・マイヤーという熱心なクリスチャンがおられます。2009年に天に召されましたが、その成功哲学をSMI(サクセス・モチベーション・インスティテュート)という学びを通して今も世界中に発信しておられます。彼のことはです。

「管理者というのは、別な人に属しているものを取り扱う人のことです。神が宇宙を造られたので、創造の権利のゆえに、すべては神のものです。神の創造の対象であることから、私たちはせいぜい管理者であって、決して所有者ではないのです。この現実、私たちの経済から時間のことまで、あるいは能力のことから子どもたちのことまで、すべての分野で私たちに影響を及ぼします。すべてのものは、神によって私たちに委ねられているだけなのです。」

彼の考え方の基本は、信仰にあります。しかも、自分自身に与えられているものすべてが神様のものであり、自分はただ管理者として任せられているだけであるという自覚を持っていました。彼が23歳のときすでに生命保険会社のトップセールスマンとして年間100万ドル稼ぐ若者となりましたが、その後こんな体験をしました。

「私は27歳の時に10分の1献金を始めました。私が神に10%をささげることは、とても見事だと考え、そのことで誇りに思っていました。その頃、私の牧師のビル・ヒンソン師が、私をビジネスマンで慈善家のロバート・G・レトネオウ氏の講演会に招待してくださいました。その夜、レトネオウ氏は、彼が収入の90%をささげ、残りの10%で生活していることを話しました。私はその講演会場を出て、ビル牧師に『10%の献金で、あまりにごうまんになっていました』と言いました。私はその時に、もっと献金しもっと神に頼ることを学ぼうと決心しました。そして、わたしがささげればささげるほど、神は逆に与えてくださったのです！」

「しかし、私の学びの小道は平坦な道ではありませんでした。10分の1献金を始めてから6か月後に、自分の責任ではなかったのですが、散々なビジネスの失敗のために全体で90%の損失を出したのです。答えを求めて神に立ち返った時に、マラキ3:10の前半の言葉が目にとまりました。次のように書いてあります。『10分の1をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ』『余裕がある時に』10分の1を持って来なさいとか、『残ったものであれば何でも』とか一切言われていません。10分の1を支払うことは、お金が沢山あってもなくても、ただ単に管理者の務めの原則なのです。」(「成功への25の鍵」小山大三訳)

その他にも沢山の素晴らしい証しがありますが、捧げものは私たちの信仰の現れでもあります。もっともっと主に忠実な者になっていきたいと願わさせられました。